

## 知らぬ間に 世界とつながっている

今あなたが手にしているこの「JICA's World」、身に着けている衣服、部屋のテレビやパソコン。そう、私たちの身の回りのほとんどのモノは、海外のどこかの国で原料が調達されたり、加工されたり、組み立てられたりしている。周囲を見渡してみても、純粹に「Made in Japan」を見つけるほうが難しいくらいだ。

モノだけではない。旅行、教育、投資など、私たちはこういったサービスを選択するときにも海外に目を向けることが当たり前となった。数十年前は「変化した社会。だが、そんなことを意識している人がどのくらいいるだろう。知らず知らずのうちに世界とのつながりを深めている私たちの生活」。それがグローバルゼーションだ。

「グローバルゼーション」が急速に進展したのは1980年半ば以降。きっかけは、18世紀の産業革命にも匹敵するといわれる「IT革命」が起きたことだ。コンピュータや情報通信技術（IT）の進展によりあらゆる業界でIT化が進み、大量の情報が短時間かつ正確に処理できるようになったことから、空間や時間の概念が変化。世界との距離感が急激に縮まり、社会や生活のあり方に劇的な変化をもたらした。

さらに、89年のベルリンの壁崩壊、91年のソビエト連邦解体を経て、多くの東欧諸国や旧ソ連諸国が市場経済化に向かい、世界経済と統合を進めたこともグローバルゼーションに拍車をかけた。85年のプラザ合意を受け、90年代前半には円が切り上げられ、アジアや中南米向けの海外直接投資が急増。95年のWTO（世界貿易機関）体制の樹立（貿易自由化）もあり、グローバル化の波は一気に押し寄せた。同時に、出稼ぎや移住を目的とした人口移動も増加し、それに伴って海外送金の額が増え、GDP（国内総生産）に占める割合は、低所得国ほど高い伸びを示すようになった。そして現在、1日の為替取引総額が3兆ドル（約280兆円）を超えるというから驚きだ。

「80年代以降、急速にグローバルゼーションが進展したのは、途上国の自発参加が見られたことも大きい」と話すのは、大坪滋・名古屋大学大学院教授。それ以前にもあったヒト・モノ・カネの移動は、「先進国→途上国」「先進国→先進国」が主流だったが、この時期になると、多くの途上国が貿易や投資、金融の自由化を推し進め、世界経済との統合を経済成長や貧困削減といった開発戦略の核に据えるようになった。その結果、途上国との関係をより一層深めることになった日本。そしていつの間にか、「途上国抜きに私たちの生活は維持できない時代」へと突入したのだ。



KOSOVO

グローバルゼーションの進展により、地域内または国内での紛争が国際化。2008年に<コンボ>がセルビアから独立宣言した際も、アメリカやEUなど仲介役の存在が大きく影響した。  
© UN Photo/Afrim Hajrullahu



CHINA

グローバルゼーションの波に乗った<中国>は、1990年代に入ってから急速に経済が発展。2004年以降の経済成長率は平均10%を超え、新興国として世界に台頭する。勢いのとどまることを知らない中国は近年、資源確保などを目的にアフリカ諸国へも積極的に進出。



ブラジル人や中国人などを中心に、<日本>で働く外国人労働者はこの10年で倍以上に増加。愛知県豊田市など居住者が多い地域では、親を待つ子どもたちのサポートなどが地域ぐるみで行われている。  
© 時事



新型インフルエンザが世界的大流行したのは2009年春。<メキシコ>で発生が確認されてから感染者は瞬く間に世界中に広がり、国境を超える感染症の恐ろしさをまざまざと感じさせる出来事となった。  
© 新華社/AFLO

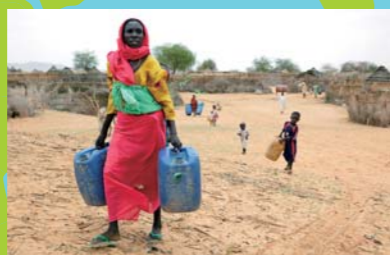


HAITI

<ハイチ>は2007年10月末、カリブ海で発生したハリケーンにより被災。地球全体でこうした気候変動による自然災害が多発している。  
© UN Photo/Logan Abassi



2008年に世界の食料価格が高騰し、<ブルキナファソ>でも暴動が起こった。特に、小麦やトウモロコシなど穀物全般が最高値を記録。その大半を輸入に依存する日本も影響を受けた。  
© Curt Carnemark/World Bank



グローバルゼーションによる地域間格差の急激な拡大は、貧困や、土地・資源をめぐる争いに発展する場が多い。内戦が今も継続中の<スーダン>ダルフール地方では、たくさんの人々が避難生活を余儀なくされている。  
© UN Photo/Olivier Chassot



世界有数の森林面積を誇る<インドネシア>では、生産される木材の約半分が違法伐採によるもの。そしてその減少面積は、最大のブラジルに次ぐ広さだ。  
© Curt Carnemark/World Bank



ANTARCTICA

驚くほどの速さで後退が進む<南極>の水河。大気中の二酸化炭素濃度が上昇するために起こる地球温暖化。その影響は至るところで深刻化している。  
© UN Photo/Eskinder Debebe

# 相互依存の世界 どこから来てる？ 私たちの暮らし

1980年代以降のグローバルゼーションにより、世界の国々は関係を急速に深めている。

いまや、他国とのつながりなしに成り立たない時代。  
気付かぬうちに私たちの暮らしも、海外に“依存”している。

編集協力:大坪滋・名古屋大学大学院国際開発研究科教授  
参考文献:『グローバルゼーションと開発』大坪滋編著(勁草書房)、  
JICA「日本・途上国相互依存度調査」報告書